

官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）審査・評価委員会
スタートアップ・エコシステム形成推進事業分科会概要

- 日時：第2回 令和3年6月2日（水） 13:00～15:00
 - 場所：内閣府中央合同庁舎第8号館6階及びオンライン
 - 議事：
 - (1) 令和2年度（当初予算）官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）
スタートアップ・エコシステム形成推進事業のフォローアップについて（審議事項）
 - (2) 令和2年度（補正予算）官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）
スタートアップ・エコシステム形成推進事業の進捗状況について（報告事項）
 - (3) その他
 - PRISM 審査・評価委員会 委員（敬称略）
 - ◎上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）
 - 菅 裕明（東京大学大学院 理学系研究科 教授）（当日欠席のため書面審議）
 - Victor Mulas（World Bank, Senior Urban Specialist）
- ※ ◎は座長

【概要】

- 令和2年度（当初予算）プログラムの成果
 - ・Born Global コース（Techstars）の約7割（16社）、Global Preparation コース（WiL）の約5割（12社）が海外企業・投資家との商談を1回以上実施したと回答。
 - ・参加企業が、海外での事業展開におけるキーパーソンや海外VC等とネットワークを形成した。
 - ・参加企業が海外展開について助言を得て、海外展開、海外からの資金調達に積極的になった。
 - ・英語でのピッチトレーニングにより、海外投資家へのPRスキルが向上した。
 - ・参加企業が海外マーケットの情報収集や事業構想を改善できた。
- 令和2年度（当初予算）プログラムにおける課題
 - ・参加企業のモチベーションにばらつきがあった。モチベーションの高い参加企業を選定するための工夫が必要。
 - ・多様なステージのスタートアップが参加しており、ニーズにばらつきがあった。
 - ・分野に固有の問題（規制や規格等）に対して専門的なアドバイスを求める参加企業もあり、プログラムの専門性が要求された。
 - ・海外投資家がもっと Demo Day に参加してくれると良い。海外VCに対する訴求力を高

める必要がある。

- ・タイトなスケジュールでプログラムを設計したため、プログラムの全体像を事前に参加企業に示すことができなかった。
- ・参加前の認識合わせや、プログラム開始時のオリエンテーション、参加企業間のネットワーク形成を充実できると良かった。
- ・オンラインだけでなくリアルでの機会もあると良かった。
- ・自治体等の職員が伴走支援者として参加したが、立ち位置が不明確であった。

○ 令和2年度（補正予算）プログラム実施に向けた改善点

- ・それぞれのスタートアップ・エコシステム拠点都市が掲げるKPIの達成への貢献が重要。
- ・本アクセラレーション・プログラムには公的資金が投入されているという意義を参加企業が認識するとともに、それがどのような行動変容につながったのかフォローアップしていくことが重要。
- ・資金獲得など今後の成長を見極める視点から、参加企業を選定するプロセスが重要。
- ・モチベーションの高い参加企業を選定するため、拠点都市からの推薦だけに頼らず、公募で意欲ある企業の参加を募るべき。
- ・プログラムのゴールや実施内容を示し、それを理解しモチベーションが高いと認められる企業を選定すべき。
- ・ステージや分野に応じ、小規模のコースに分けて、参加企業の実態に合わせた専門性の高いプログラムを設計すべき。
- ・大学発スタートアップに特化したアクセラレーション・プログラムを実施できると良い。
- ・海外投資家の参加を増やす等、Demo Dayの運営を工夫すべき。
- ・参加企業がプログラムをフル活用できるよう、オリエンテーションの充実や参加企業間のネットワーク形成等を充実すべき。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況に注意しつつ、リアルでのイベント開催についても検討すべき。
- ・拠点都市のニーズも確認し、拠点都市の支援者（自治体等職員、民間キープレイヤー等）の関わり方を検討すべき。

以上